

第三者評価結果の公表事項(母子生活支援施設)

①第三者評価機関名

株式会社東京リーガルマインド 岡山支社

②評価調査者研修修了番号

S15142、H1301043、S25097

③施設の情報

名称：岡山市仁愛館	種別：母子生活支援施設	
代表者氏名：牧 俊孝	定員（利用人数）：20世帯62名	
所在地：非公開		
TEL：非公開	ホームページ：なし	
【施設の概要】		
開設年月日：昭和23年8月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：岡山市		
職員数	常勤職員：2名	非常勤職員 3名
専門職員	(専門職の名称) 名	嘱託医 1名
		心理療法担当 1名
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	10室	居室：6畳、3畳(4.5畳)の和室、 台所、トイレ 居室以外：事務室、集会室、学習室、 静養室、浴室

④理念・基本方針

【基本理念】

母と子の権利と尊厳を擁護します。

【基本方針】

＜パートナーシップ＞母と子の願いや要望を受けとめ、安心・安全な環境の中で、母と子の生活課題への取り組みを支援し、安定した生活の営みを形成することをめざします。

＜自立支援＞母と子の自立に向けた考えを尊重し、その歩みをともにしながら、母と子を支えることをめざします。

＜人権侵害防止＞法令を遵守し、母と子の人権侵害を許しません。

⑤施設の特徴的な取組

当施設は岡山市が設置、運営している施設で、福祉事務等の行政機関と密接な連携がとれた利用者支援を行っています。当施設に入所する世帯はDVや住宅事情（経済的理由）といった理由が多く、入所時の不安の解消、家事や育児の相談、支援や経済的自立（福祉援助を含む）のための支援を行っており、入居期間も短期での自立が多いものとなっています。

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成29年8月7日（契約日） ～ 平成30年2月7日（評価結果確定日）
受審回数(前回の受審時期)	1回（平成26年度）

⑦総評

◇特に評価の高い点

<継続した支援>

毎月実施する職員会議では、福祉事務所と岡山市こども福祉課の職員が参加し、職員との会議を重ね、支援の質の向上が図られている。また岡山市管轄の施設であることから、関係機関等の連携が図られている。入所前からの相談支援や、退所後のアフターケアまで支援が継続されており、母子の居場所に繋がっている。

<業務日誌の活用>

少人数のため、日常の支援の中で職員間の情報の共有化が図られている。その中でも業務日誌は細かく書かれ、早番・遅番・休日の職員も日々の参考にしている。特に雑談などを書いた中からヒントを得て、コミュニケーションを深めるなど積極的に活用している。

<温かみのある環境>

節減された予算、老朽化した施設など厳しい運営環境の中、少しでも温かみがあるように可愛い飾り付けを心掛けたり、清掃にも力を入れたりしている。

<支援の質の確保>

毎月入所者と面談を実施して希望や要望を聞き取り、定期的に支援計画を見直している。

◇改善を求められる点

- ・施設の特性を考慮して地域開放を行っていないが、公共施設を利用し、子育てへの相談、支援等の実施をすることを期待する。

- ・岡山市の「子ども・子育て支援事業計画」はあるが、事業所独自の中・長期計画は作成されていない。事業計画は中・長期のビジョンに沿って実施されているので、職員の参画のもとに策定し、施設として共通理解のもとに推進して行くことを期待する。

- ・性については、幼児期から大人や絵本などから正しい知識を得る機会を設け、思いやりの心を育む支援が必要なので、低年齢児からのマニュアル作りを望む。

- ・母親の就労環境を整える支援を視野に入れた場合、母親が望む場合は、補完保育が出

来る体制を整える努力を期待する。

・様々な計画は職員が主体となっている為、今後は母親や子どもの自主的、主体的な活動を通して、自己表現力や自律性の醸成をより一層促進する支援作りが期待される。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

今回の第三者評価受審で2回目となり、1回目の受審後に改善できた部分もありましたが、未だ改善すべき所も多く残っており、今後の改善に向けてのアドバイスを直接いただくこともできました。また、施設職員が利用者の母と子のことを尊重し、できる限りの援助をしていることを評価していただいたことは、うれしく思います。

今後の施設運営におきましても、いただいたアドバイスを元に、より利用者の視点にたった施設運営を心がけていきます。

⑨第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。